

楽しい夏休みになりましたね。計画を立てて、ふだんできない事にいろいろ挑戦してみましよう。さて、七月は文月。文月とは稲の穂のふくらむ「穂ふむ月」が転じて「ふむ月」で略して「ふづき」ともいいます。また七夕の牽牛と織女星に詩歌の文を供えるから文月だともいわれます。穂見月ともいう稲穂説と七夕説とがよく知られています。

【お盆】十五日

仏教行事のように思われていますが、これも日本固有の祖霊信仰です。「盆と正月」というように、正月は神式、盆は仏式の祖霊迎いの行事です。七夕の笹竹は門松と同じく祖先を迎えるアンテナの役目。ご先祖の方々の大変なご努力の積み重ねのお蔭で、今日の私達の平穏で幸せな日々の生活があることを想うと、感謝の心で一杯になります。

七日盆で七日からお盆が始まる地方もあります。十三日が迎え火。月おくれ盆といって八月にお盆の地方も多い。迎え火や送り火は、祖先の通る道筋を明るくするための門火。盆踊りはお迎えした祖先に供するための踊りですが、祖霊も一緒に踊っていたり地方もあるようです。

【土用入】二十日頃

夏の土用入り。春夏秋冬とともにその季の終わりの十八日間が土用。夏の土用はこの期間が暑中で、土用丑の日とか土用干しなどあるので有名となり、土用とは夏と思われています。春の節分と同ような雑節のひとつです。



【海の日】第三月曜(今年は七月十八日)

「海の日」は、平成七年に祝日法が改正された折に制定されたので、他の祝日に比べると最も新しい祝日。正確な由来に遡ると昭和十六年に七月二十日を「海の記念日」としたのを引き継いだもの。この七月二十日とは、明治天皇が明治九年の東北・北海道ご巡幸の折、陸路の旅は青森まで、あとは海を渡って函館に巡航され市内ご視察の後、海路でご帰還、横浜港に到着された日です。

このご巡幸は、江戸時代の幕藩体制から中央集権国家への改革で、旧武士たちに不満が燃っていました。その心のしこりを解き、国民の心一つにしたいと願っておられた明治天皇が、国民に接することで「国づくり」を進められたのです。ご先祖以来の「君民一体」の姿に、我が国の伝統文化への回帰を願われたのが、このご巡幸でした。

大東亜戦争後の復興に際しても、昭和天皇の全国ご巡幸が今日の日本繁栄の出発点でした。新しい国を建設するため荒波の中に漕ぎ出す苦難の道を、天皇さまは国民の先頭に立って歩まれたのは、明治天皇の東北・北海道のご巡幸と同じで君民一体の姿なのであります。

現在では、「海洋国日本」ですが、明治の時代はまだ汽船による航行には相当の不安があった一般国民も、同行の人々が船酔いに苦しんでいたのに天皇さまは泰然としておられたそうで、それを伝え聞いた国民は、このご巡幸を機に開運と船旅への理解を深め、その利用も急増したそうです。

この「海の日」は、「海の恩恵に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄を願う」の日との趣旨で、海と国家とのあり方を考えようとの意味をこめた



祝日なのです。

よろこびのうた

よろこべ、よろこべ、

よろこべば

よろこびごとが、よろこんで

よろびをつれて よろこびにくる



家庭教育 ワンポイントアドバイス
『自分で考える力』を身につけよう！

先日、ある子供新聞に、小学生で演歌歌手としてデビューした「さくらまやさん」の記事が載っていました。現在は高校三年生のまやさんは、元々勉強が好きではなかったそうです。けれど、お母さんとお姉さんと三人で週一、二回大きな紙を黒板代わりにして、かわりばんこで先生役をする「家庭授業」が楽しみだった。お母さんは、パイを切つて分数を教えてくれたり、お姉さんは理科の実験を見せてくれた。まやさんは折り紙や粘土を教えたそうです。この「家庭授業」のお蔭で、今では友達と勉強を教え合うのが好きだということです。ある時期、知識の詰め込みも必要だがそれだけでは得られない「自分で考える力」が身についたといえます。

まやさんのように、何かをきっかけに「自分で考える力」を身につけるまで、親は見守り、そつと後押し出来たらと思います。見守るといえるのは、つい口や手を出し手助けしてしまうので、簡単なことではありませぬ。でも、結果を求める以前に創意工夫する過程を大事にしたいのです。そのよくなきっかけが、「寺子屋」の活動の中にも多く取り込まれていると思っています。

(越智 京子)

七月 和歌コーナー



おりがみで わつかをつなげた

いろいろな かざりをつけたよ たなばたのささ
たなばたのねがいをかいた たんざくに

サッカーせんしゆに になれるといいな

年中 S

☆たなばたかざりを作って、ねがいをこめてささに
つけましたね。思ったことを素直に和歌にできまし
たね。

はくぶつかん スタンプおしたよ うれしいな
きょうりゆうもいたむかしのいきもののえがあつた

年長 H

☆はくぶつかんで、きょうりゆうやむかしのいきも
のを見た時の驚きや嬉しい気持ち伝わってきます。

六月に 雨がいっぱいふってくる

雨がいっぱいふるのはなあぜ

つくしんぼ びんと立ってる春に出る

おかあさんはすきなんだよ

小学二年 A



☆お空からふってくる雨をながめていると、ふしぎ
な気持ちになりますね。ふしぎだな、なぜだろうと
思ったことを、素直に言葉で表しています。

お母さん いつもお母さんより作るから

あしふみ一日 してあげたいな

さいきんね お母さんがね くだものを

いっぱいもらって 帰ってくるよ

父の日に おともだちとね お買ひもの

二回目だけど きんちようしたよ

小学二年 R

☆「大好きなお母さん、ありがとう」という気持ち
が和歌にあふれています。和歌ノートに和歌をいっ
ぱい作って、すごいですね。

ささの葉に たんざくつるし たのしかった

かなうとうれしい ねがいごと

小学三年 T

☆自分のささに、たなばたのかざりやたんざくをつ
るして、楽しかったですね。願い事、かなうとい
いですね。

ささのには たんざくつるし

ねがいごと かなうといいな たなばたかざり

小学四年 H



☆みんなと楽しく飾りを作ったり、短冊に願ひ事を
書いたりしたのを、歌にしました。同じたなばたの
和歌でもことばの順番を変えたり、ちよつとことば
を工夫してかえてみたりすると、感じがちがって、
自分の気持ちとピッタリな和歌ができますね。

今月の論語

子、曰く

「人の己を知らざるを

患えず。

人を知らざるを

患う。」

(現代語訳)

孔子先生がおっしゃった。

「他人が自分の実力を理解してくれないこと
を嘆くことはない。他人の実力を自分が見極
められないことこそ心配するのです。」

(解説)

自分のことを誰もわかってくれなくても、がっ
かりすることはありません。それよりも大切な
ことは、まわりにいる人やお友だちなどがどん
な人なのかを、自分が正しく知ることです。

「親子で楽しむ こども論語塾」(明治書房)より

次回は 八月二十七日(土)、夏休みオープン寺子屋
です。お友達をさそってくださいね。

十時から十二時半までで、**お昼を食わずに帰ります。**
持ち物は、**白っぽいくつした**(茶道教室の時、親子
共足袋の代わりに履いて、お部屋にはいります。)と、
暑いので**水筒、ハンカチ。**
プロの落語家とお茶の先生が楽しく
教室を開いてくださいます。



おたのしみに〜

(文責・藤波)